I will find a way or make one. (Hannibal)

EIKO NEWS FLASH

発行所
栄光学園新聞部
横須賀市田浦

朝礼訓話

自主的に礼儀を

シュトルテ先生語る

十二月二十八日、シュトルテ先生は、朝礼の場上で、生徒・先生間の礼儀について大略次のように話された。

▼先ず第一に、本校では先生と生徒との間が特に親密で、あだ名も不自然とは感じられないようであるが、これを用いるのは、自ら限度の問題である。

学校内等で親密的に用いるならいざ知らず、登校、帰校時に於て迄、先生の名をあだ名で呼ぶのは、一般の人に与える感情の面から見ても、相当考慮すべき問題である。もし、この傾向を学校に全然無関係な人が聞いて一体どんな感じを受けるだろうか？果して、その中に含まれる親密感を受け入れるだろうか？否、多分、そう感ずる人は少ない事であろう。従って、その印象も余り好ましいものではないに違いない。

とに角、この一事から見ても、校外に渾名を用いる事は余り好ましい事ではない。生徒は各自一人々々もう少し自省して欲しい。

▼次に、校内に於ける態度であるが、これにも改めるべき点は大分ある。

生徒が教員室に入る時には、靴や帽子は外に置いて入るのは当然の事であるし、又慌しい生徒が居らうしやぬ時はすぐに出るのも当り前である。教員室の掲示板を眺めたり、甚だしいのは先生の机の上の書類等を勝手に見たりする者もいるが、こんな事は、今後絶対に止めて欲しい。

又ノックをする場合も、一回ノックして返事がなければ、本在か、又は今会いたくない場合である。こういう時に二回も三回もノックする者が屢々あるが、これは大変失礼な事である。

▼とに角、このような礼儀作法に関する問題は先生が注意するよりもむしろ生徒自身が自主的に注意し合うべき問題である。そして生徒自身の心掛一つで、容易に改善出来る点である。皆、今後もう少し礼儀を念頭に置いて、お互いに注意し合い、協力し合って、もっとしっかりと礼儀を守って欲しい。

生徒の担当数の者は、現在の所、一人でいる時は礼儀をしっかりと守るが、友達と一緒だと礼儀なおろそかになりがちである。

こんな状態であっては ならない。生徒は常に友達を積極的に注意し、もっと自主的に、礼儀態度を正しくして貰いたい。

栄光とクリスマス

又楽しいクリスマスが来た。例によって賑やかなお祝が催されることであろう。思い起す、一昨年の学芸会は新装成った講堂で、満場に合唱に、和気藹々と平日を送った。寒い日であったが心から暖まる思いなした。去年は中共の参戦で、今にも大戦争になりそうなあわただしい雰囲気の中に、皆校に充たれた校長先生が、赤色を恐まして、平和を守る責任を痛感されたのが、鮮かに記憶に新らしい。世間の人達が皆、栄光のような精神となったら戦争なんかないだろうに——と歎くように云われた御言葉がまだ耳にしみついている。あれから既に一年。戦局の帰趨は混沌する許りないか。先ずわが康を得た上で、今年のクリスマスの祭いは、いくらか落着いた気持で行われそうだ。併し、胸中の疑念が氷解すると迄は行くまい。世人が皆栄光のような精神になったら、——そうだ、その暁こそ人は平和を謳歌み、地上は神の栄光に包まれよう。僕達は世間がどうであろうとも、正しい道を真一文字に進んで、我等の栄光をより立派なものとすると同時に、栄光精神を基底とする素晴しい世界を築く為に、竜う限りの努力をしなければならないのである。

FIKOと云う名は実にいい名だ。和かな母音な三つもあって、中に一字Kという破裂音を全体をひきしめている。平和を愛する中にも、厳格な規律な流れていると云つた感じだ。それに、えいと云えば、関西弁では、良いと云うことだ。栄光は即ち良い校を意味し、良い子（の学校）に通ずる。栄光の今日ある、ケだし偶然ではないと云いたくなる程である。此機会に栄光の語義を調べ、認識を新にするのも強ち徒労ではあるまいか。

GLORY（栄光）とは、先ず、自己の為に名誉を要求する性質(1)であり、世間が個人に与える名誉(2)であり、転じて、名誉をもたらすもの(3)、賞讃謳歌(4)となり、聖書の用法に於て、神の顕現に伴う壮厳華麗(5)となるか と思うと、ひいては、一般の、優美壮麗(6)に及び、更転して、天国の幸福(7)、光彩陸離卓絶せる状態(8)の意を表わしたま、最後に三転してAscription 即ち救世主、聖母を恭しく栄光の意となっている。これらの語意を背景に持つ、栄光と云う名前の含蓄は、真に輝かしい限りであるな、名を立派なだけに、名実相伴わしむる為には、絶大なる努力を必要とする。我等は更に勉学を励み、人格の陶冶に意を用いて、以て世界の道義的背骨となるべき修養を怠ってはならない。我等の栄光をして真に栄光あらしめよ。

我等は栄光を目ざして、栄光のために、我等の学光を世界のともしびとしようではないか。

Yes I love Glory (Glory's a great thing. Byron)

道路補装

本校門内、田浦中学坂下の区域は、未だ舗装されず、雨の日にぬかるみとなっていたが、この程ようやく舗装される事になった。併し多くの生徒は「更に靴なへるなア」と首を傾けている。

工事はかどらず

本校構内に残る唯一の古めかしい建物"講堂の隣に立つこの建物、昔に寮舎になるとかならぬとか云って騒がれたが、ついにこの夏から取こわしな始まった。併しこの建物は寮外に頑強で、まだにこわれず毎日ダイナマイトの音をひびかせている。

智能テスト

十月二十八日、二十九日の二日間にわたって一、二、三年共通の智能テストな行われた。二十八日に社会科と数学、二十九日には国語と理科な行われた。

その日には授業は普通のまま五十分間で、一、二校時に各教室で行った。この為に担当時間割の変更なあった。

テストの内容は、国語に文法、かな使いなど、社会科に地理、数学に方程式、その他色々な応用問題、理科には生物、化学などな主だった。

尚、同テストの結果は次号に——。

中三全員 金沢文庫見学

十一月十七日（土）三年生の金沢文庫見学が行われた。引率の先生は、当真先生——。

一時、文庫前に集合。先ず称名寺の鐘の説明なあり、続いて文庫を見学した。二階の全場を一応見て、講堂に集まり当真先生の文庫に関する説明を聞いた。

尚会場には国宝や重要美術品なども相当あった。生徒の中には、なかなかのいたずら者もいて、流石の当真先生も大分手こずったようである。

高一全員 新聞社等見学

高一年生は、十一月二十二日、全員東京に、国立博物館、朝日新聞社の見学を行った。

国立博物館では、古代文化史展を見、新聞社の方は、編集局より印刷に至るほぼ全社を見学し四時頃帰宅した。参加先生は、ヘルウェッグ、加藤、草野、向井の四先生。

冬時間

生徒諸君の待ちに待った冬時間な十二月一日より開始された。

すなわち朝礼開始8時50分、1校時を45分間とし、5校時開始時間を1時50分、6校時終業時間を2時40分となった。

これで朝寝坊の生徒諸君も楽になった。

感光材料と力メラの店
現像焼付一日仕上
合資会社 日光商会
鎌倉市小町一
電話 四三九

鎌倉 鳥森書店
新刊書籍、参考書、文房具
現金安売の店

クリスマス　とサンタクロース

J・エイレンボス

私の思い出の中にもっともいきいきとしているクリスマスについて何か書くように頼まれました。私はクリスマスをいろいろな国――フランダース、イギリス、ハンガリー、アメリカ、日本――で祝いました。どの国のクリスマスもお祝の主な部分は同じでしたが細かい所はすい分ちがっていました。どの国もおのおのその特色を持っています。日本の少年に特別興味のあるものをえらぶのは難しいと思いますがアメリカのクリスマスとは他の国で祝われのとちがったものなのであります。アメリカの子供にとってクリスマスはサンタクロースなやつてくると云うことを意味するのは事実です。

サンタクロースとキリスト降誕とはどういう関係があるのでしょう？とにかくサンタクロースとは誰でしょう。先ず第一にサンタクロースとはこの人の本当の名前ではないのです。本当の名前はニコラスと云い、第四世紀今日のトルコのミラという所の司教でした。彼は三五二年に亡くなりました。この聖人はギリシャ、オランダ、ドイツ、フランダースにおいて、最も人気のある聖人の一人です。オランダやフランダースではシンテ・クラース（St. Nicolaas）として知られています。君たちはオランダ人がイギリス人に追従われる前にニューヨーク州にいたと云うことを御存知でしょう。この人達は今日アメリカ迄になっている$5,000,000不$と云うような三三の言葉だけではなく沢山な名前をのこしていきました。そして彼等はシンテ・クラースのお祝をものこしました。このシンテ・クラースも英語を話すアメリカ人がサンタクロースと変えてしまったのです。シンテ・クラースは子供達の守護者で色々なおもちゃにたべものを十二月六日の祝日にもってくることになっています。筆者が子供であつた時も、他の子供達と同じように十二月六日は一年中で一番大きなすばらしい日でした。何週間も前からいつも煙突からやってくるシンテ・クラースの大事件を私達から離している夜数――日数ではなくて――を数えていました。

十二月五日の夜には、期待をもって床につき殆んど眠りませんでした。朝なくなるといつもと違つてとび起き大急きで顔を洗い着物をきて暖炉のところへ行ってシンテ・クラースのロバか前の脱そこにおいた人参やかぶを喰べたかを見ました。万才人参もカブもない。シンテ・クラースは来たのだ何をもってきたのだろう待ってきたものを何処においたんだろう。光が一つの部屋のドアーの鍵穴や隙間からもれている。てはどうしてアメリカの人達はこの日を十二月六日から二十五日にかえたのでしょう？

私は知りません。でも多分多少はイギリスの習慣で変ったのでしょう。

イギリス人はクリスマスに贈物をする習慣でした。それで同じ月のうちに二度も贈物をするのを嫌ったのでしょう。だからこの人達はシンテ・クラースのお祝をクリスマスにするようになりました。この不幸な結果としてアメリカの大勢の子供達はクリスマスのお祝の目的はキリストの降誕であるという本来の意味を忘れてしまったのです。子供達はサンタクロースな誰であるかと云うことを知らないので、たゞ贈物をもらうことをだけ考え他になにも考えないのです。(終)

良書案内

今月は和辻哲郎著の、「イタリア古寺巡礼」を紹介致します。

ヨーロッパ南部、特にイタリアに於ける自然とは、どのようなものであるか、一つの絵画から彫刻、教会建築に至るまでの美術品はどんな性質のものであり、又それらはどのように鑑賞されなければならないだろうか。これらの問に明確な答を与えるものはこの本である。この本は一九二七年十二月より、翌年四月までの間、著者がイタリアを各地を旅行し行く先々のホテルで書いた私信を集録したものであり、その巧みな自然描写と、優れた鑑賞眼とにより作られた一文一文は、読者の心を全土に達したものである。これは〝中よりもり出るものの美しさ〟生きた美の表象である。ナポリに於けるギリシャの建築物は色彩の弱点を持ち影の薄いものである。ローマにはゴシックは発達しないがルネサンス美術は、（特にその彫刻は）全く絶対的と云ってよい程の統一的な完のうちに、欧州の情趣を充分に感じさせてくれるであろう。

パリを出発してからローマに入るまでの十日間に著者の眼に映じたものは、自然の美しさであり、色調の美しさであつたりローマ建築の巨大さ。ローマに入るとまず目につくのは、ローマ時代よりルネッサンスに至るまでの巨大な建築物であるな、それは巨大であることに、大きな意味があるのは、自然の美しさであり、ローマ建築の簡素な好はこの生きた美を圧し殺したものであるといえよう。ローマやその近在の地方に於けるルネサンスは色彩の弱点を持ち影の薄いものである。ローマにはゴシックは発達しないかシチリアのパレルモに於ける〝ルネサンス建築にはゴシックの特徴な香わっている。景色の良いアシシを通ってフィレンツエに至ると十三、四世紀に於けるジョットー派の絵画を始めとして、ルネッサンスのものが現われ、その建築の簡素な好さが感じられる。ルネッサンスの色彩の美しさはウエネチヤに於て始めて表現されたと云われよう。このような著者のイタリア巡礼記を読者がギリシャ美術、ローマの建築そしてルネッサンスの作品に対して、理解と造詣を深める上に、非常に有益なものとなろう。

（図書部調査報道係）

作文　写真　入賞者発表

本新聞部では洗濯文化の日を記念して作文、写真の作品募集を行いましたところ、この程応募作品の入選が決定致しました。尚作文の方は応募数の少ない為校長賞のみ決定致しました。授与式は学芸会の時に行われる。又写真はクリスマス学芸会の日に講堂二階にて全応募作品を掲示致します。

入選作品

▼作文の部

校長賞　中三A

▼写真の部

新聞部　作文募集入賞作品

校長賞「卵」　中三A

天気のよい日曜日の朝僕が勉強していると洗濯をしていた母が、「ニワトリが卵をうんでいるよ」と教えてくれた。僕はおどろいて、小屋へ駆けつけるとレグホンが箱から出て首を上へ向けて鳴いていた。母も、人形遊びをしていた妹も走ってきて鳴いた。ここに第一号の卵が誕生したのである。僕は卵を出していい……と聞くと、母が笑顔で首をたてに振った。急いで戸を開けて中へ入ると二羽のニワトリがびっくりしてすみへ逃げた。僕は胸をどきどきさせながら卵をつかんだ。暖かいすべすべしたわらかいような卵を……そして小屋から出た。嬉しいのかまのひらへのせてじっと見てから、ほおずりをした。卵はあかがつくかと思われるほど、小さい手大きい手と何回もかえた。母の眼にも、妹の眼にも白い卵な映っている。少したつと、妹が「卵がコめたくなつちやつた」と云つて泣きだした。僕はしばらく中をのぞいていたが、時々僕の眼とニワトリの眼と一致したような気がして事いと思つたので家の中に入つた。だけどニワトリが気にかかつて勉強が思う様に出来なかつた。数分たつてから、「コツコツコツコツ」と云つて、母はもせて泣まで出されて、庭のコスモスも風に吹かれて、笑つているようだつた。

校長賞　中三C

第一位　中二D

第二位　中三C

第三位　中三C

第四位　中三A

のぞき眼鏡

▲交通司令の厳重なお達しもついこの間のことだな、風のひどい朝一人左側を足早やに歩く姿、門の前で車の警笛に追われて右側に渡る府の横顔はまされもない吉田先生。交通違反は厳罰ですぞ!!

学生、学校図書館の店
有限会社　信濃屋商店
若町町　三丁目二
電話　四。五

各校教科書・新刊書籍・雑誌　事務用品
学用品　文房具　紙工品　花札　トランプ
碁石
横須賀
船越　東京堂
電話　田浦二五三

新刊書籍　雑誌　文房具　クリスマスカード
お正月用品
松林堂
鎌倉八幡宮通り
電話　八四六、一三六九

新刊書籍、雑誌　参考書　教科書
及び文房具
松林堂書店
逗子本通り
電話　二三八

時計　眼鏡　蓄音器　茶器
有限会社
矢島商店
電話　本店　五四八
支店　五三六

各部の近況を見る

軟式庭球部

この部は最近発足した部でまだ完全なものとはいえないが先日の募集で部員も五・六名になり練習用具もふやし一生懸命練習して将来は立派な部にする様に努力している。テニスコートも今度高等学校々舎の裏に作り今後練習後二組に別れてゲームをする。山本・東郷両先生が部長のスタール先生を助けて部員の間に入って色々細かくコーチして下さる。約一時間半、皆夢中で球にぶつかって行く「今日はこれでやめます」と先生の声がかかる頃はいつのまにかあたりは夕もやに包まれて港の灯が美しい。再びグラウンドをニ周、練習は終る。皆汗だくだ。帰り道誰もがもらす言葉は「あゝ腹がへった」である。

玩張る蹴球部

秋の栄光山も次第に色あせて九月の部内革新以来蹴球部は初の好シーズンを迎えた。その活動ぶりには、同じグラウンドで練習する野球部も驚いている。ラインは部員が放課後シャベルやくわをふるって引き、新しいゴールも校長先生が立ち下さって一応グラウンドは完成した基本的な技術の訓練はまだまだ足りず部員の熱心な練習が望まれる。

練習は木曜の放課後・グラウンドを駆けて一周準備体操そしてキックの

物理部

ちょっと変った二年生だけの部と云うまだ新しい物理部は、九月の末では総勢四二名が一緒にやって来たなしたい事が思いつきり出来ないために十月の初めにA組とD組、B組とC組との二つの組に分けた。その為先生も話し易くなり工作等も先生の基で学校の設備をつかって楽に出来るようになった。

も熱心に練習して技術を磨き、他の学校の部と試合するのも遠くない事であろう。

学校劇部のおねがい

来年から、創立記念日クリスマスとは別に、一学期に一度位土曜日の午後を利用して、発表会をやりたいと思います。みなさんのお読みになった戯曲の中で面白いもの、良いものがありましたら御推薦下さい。又国語で戯曲についてお習いになって自分でも書いてみようとお思いの方は、是非書いて、国語の先生を通じて部長に御提出下さい。生徒が書き生徒が演じ生徒が鑑賞する劇を、こういう発表会に是非かけたいと思います。

―演劇部―

一九五一年のクリスマスに寄せて

菊地先生

立並ぶ商店やデパートのショー・ウインドーなど次々とはでなデコレーションで飾られてゆくのを見て、こちらの連中はなんて気ぜわしいのだろうと多少皮肉つて見たいような気持でいた矢先、栄光ニュース・フラッシュからクリスマス号へ寄稿の依頼があつたのには二言なかつた。そう言えばカレンダーをめくつて見ても明日から待望の季節が始まるわけだし、また二週間このかた周囲の学生たちも盛んにクリスマスウァケーションを口にしトムとボッスと組んでガソリンを分蔵してもらつてニューヨークまで自動車を駆けばすのだなどという会話を交しているのを聞かないわけでもなかつたが、何しろ帰省などには縁の遠い僕にとつては馬の耳に念仏、ついついクリスマスの近づきつゝあることにも鈍感だつたのだろう。

時の流れはかように早い。それに遅れまじと追いかける世の変転も目まぐるしい。だが一つこゝ数年変らない事がある。それは御降誕の歓びを不安と嘆きのうちに祝わねばならない事だ。戦争中戦後の苦しみは、今では多少軽くなつたかも知れない。日々の生活にも希望が出て来たかも知れない。しかし極東朝鮮の戦火は未だ止まない。アジアの同胞ではまた新しく武器弾薬を運ぶ無気味な音が聞えて来る。先日のサンフランシスコ会議も「講和」の会議であつてもお世辞にも「平和」の会議とは言えない。して見ると今年の御降誕を迎える世界の状勢はさして変らない。

しかしクリスマスの歓びはこのような不安によつて曇らされることはない。むしろ不安が大きければ大きい程、御降誕の歓びも大きいと言えよう。神は世の罪と戦つて人々を不安から救い給う為に御一人子としてこの世に生れ給うたのではないか。とすれば、悪の勢力が強ければ強い程一層力を入れて平安の音ずれを告げる鐘を打ち鳴らし「いと高き所には神に栄光、地には御好意の人々に平安」と天軍天使に声を合せて歌い、心のそこから御降誕をお祝いしなければならない。

僕は特に今年のクリスマスに当つて遠く離れていながら学光の諸君と共に御降誕の意義を考え、真の平和への決意を新にしたい。

十一月二十日

ロンドンの初印象

君

飛行機で約三日の旅でした。こちらに来て特に目立つのは二階建ての赤いバスです。このバスは乗ることと降りることだけで他には長距離、一階だけです。そして車掌に乗つてみますが、これは別に降りる時集めません。本当に客を信用しているのです。そしてこれはバスに限らず店でもそうですが、バスの場合行先を言つて料金を払いますとピンピンと切符を切り（いい音です）必ず誰にもと言います。これは所で二分もまでは必ず同じの方来ます。車掌は始終上へ上つたり下をまわつたりして料金を求め又空席を探しています。切符は料金を集めるとくれますが、これは別に降りる時集めません。本当に客を信用しているのです。そしてこれはバスに限らず店でもそうですが、バスの場合行先を言つて料金を払いますとピンピンと切符を切り（いい音です）必ず誰にもと言います。これは所で二分もまでは必ず同じの方来ます。車掌は始終上へ上つたり下をまわつたりして料金を求め又空席を探しています。切符は料金を集めるとくれますが、これは別に降りる時集めません。本当に客を信用しているのです。そしてこれはバスに限ら

訳びも大きいと言えよう。神は世の罪と戦つて人々を不安から救い給う為に御一人子としてこの世に生れ給うたのではないか。とすれば、悪の勢力が強ければ強い程一層力を入れて平安の音ずれを告げる鐘を打ち鳴らし「いと高き所には神に栄光、地には御好意の人々に平安」と天軍天使に声を合せて歌い、心のそこから御降誕をお祝いしなければならない。

僕は特に今年のクリスマスに当つて遠く離れていながら学光の諸君と共に御降誕の意義を考え、真の平和への決意を新にしたい。

十一月二十日

雄大なグランド・キャニオン

チェルマーク先生

〈前号〉

僕が乗つていた船は冷蔵庫でした。一度船のお腹に入つて見物しましたが、始んど凍つてしまつたんです。零下十度位でした。米国から肉を積りは空ぼで、僕と一緒にヘシノウ先生と三人の日本人の大学生が乗つていました。景色が何時迄も同じだつたので読書と将棋をよくやりました。入月十七日朝サンフランシスコが現われた。船幹しなかつたのに動かない大陸を又踏み始めた時には気持がなお良くなつた。

サン・フランシスコではたつた二日泊りました。対日講和條約が出来た会場なども見物したが、その時また低約調印の予定だつだつた。イエス会経営のサン・フランシスコ大学を見物した。新しい図書館はとても立派な建物で百万冊、邦貨にして四億円だつたそうです。サン・フランシスコの銀座（以下次号）

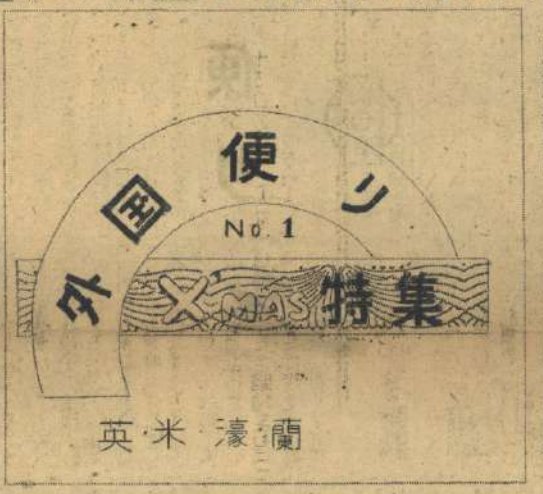
洋服の御用は
野沢屋洋服店
船橋中通り東入口

良い品にまごころそえて
㊎さいか屋

クリスマスプレゼントに
年末年始御贈答用に
万年筆専門の
万年筆病院 大沢へ!!
若松町二八一 電話一八五二

諸新聞（英字 邦字）
書籍雑誌 取扱
浜野新聞店
横須賀上町大通り 電話六七二

寄稿歓迎
作文、主張、生徒の声等、諸君の積極的な寄稿をお待ちしております。尚、寄稿されたものは、紙面の関合上のせられない場合もありますので、御承知ねがいます。
―新聞部―



（承前）の混んでいる所を別にして、その都会の家は仲々美しく、立派な庭を見ると大きな家のおもちゃのようです。レンガの色は政々です。赤外から紫外迄。サン・フランシスコから汽車で東南の方へ。汽車の良い点は、空気は何時も涼しく新鮮なことです。汽車が止つた時には外に出ようと思つたが・外はたまらない程暑かつた。カリフォルニア州は美しいですが、日本よりずつと暑い。湿気は少いのでストーブみたいだつた。いよいよアリゾナ州が見えるようになつた・高い山はないが、その平野が高い。そこにはコロラド河が雄大なグランド・キャンヨンの素晴しい恐い絶壁を作つていた・千米から千五百米程深い峡谷の底はカルフォルニア側の領域であつて、河の流れはとても速くて・荒い波の音は雷の様で二、三哩遠くからでも聞える。峡谷は五十五哩の広さで百五十哩も狭いている。僕は一番狭い辺りを六十哩見物した。時々峡谷の下には雲がかゝつて本当に美なあると、特に夜は地獄のようだそうです。今度は東の方へ行つてニュー・メキシコのラス・ヴェガスをも通りましたが、その時は残念ながら原子爆発がありませんでした。たゞ何も生えていない沙漠が見えました。次に汽車がカンサス・シティーで止つた・洪水の結果がすごい爆番と同様でした。最后にセント・ルイスに一日半滞つた。そこにはイエズス会経営の大きな大学があつて、有名なのは医学及哲学そして米国で一番权威ある地震学です。そこで南地先生に会つてウンと話をしました。先生がたゞ一週間遠く着いたので町の様子はよく分らなかつたが、御一緒にコンサートを聞きに行きました。その時からは日本人の顔は見えなくなつた・二十四日今坐つている所に着いた。もう疲れたので喜びました。この学校はシカゴ大学の部分ですが、シカゴから三百マイル南のインディアナ州にある。学校は素晴しい。図書館には日本の辞書は三つ程あつた。学生の一人は日本語が少し出来る。こちらの気候は大変上り下りが激しい。夏は湿つぽくて暑い。日本より暑い。冬は北海道より寒い時が屢々あるそうです・それからすごく変り易いのです。十一月の初めは吹雪であつて温度は零下十一度、今は雨、十一二度になつた。こちらの学校は元大きな温泉ホテルであつたが、十何年前にはその持ち主はイエズス会の教育に感心して・イエズス会員の教育と学問の為にそのホテルをそのまゝプレゼントなさつた。普通、郵便で字画を送る積りです。

生徒達の御手紙有難う。個人的にも返事しますが、普通郵便は遅いから我慢して下さい。

では又。ウエスト・バーデンにて

十一月廿四日

オランダへの旅

ウエーバー先生

拝啓、長らく御無沙汰致しました。君達のお手紙を大喜びで拝見致しました。[redacted]君のお手紙を二十日、[redacted]君のを何週間か前にもらいましたが今日迄返事が出せませんでした。君達は「ウエバーはもう僕達を忘れたでしょう」と考えるかもしれません。実はそうではない。かえつて私は毎日く宗光学園とその生徒・主に一年生が心眼で見えます。朝は「今宗光の生徒はもう授業が終つて家へ帰るでしょう」夜は「今宗光の生徒は学校へ行くでしょう」一日中君達を思い出して居ます・この頃はホームシック「宗光へ帰りたいと云う病気」がよく解つて来ました。それですからどんなに大喜びで日本から来た便りを読むか君達にもよく解るでしょう。

では私の旅行について何か……

キャンプから帰つてじき逃れられないお別れの晩が来ました。八月十一日の夜九時頃大雨が降つている頃宗光を離れて羽田へ行きました。そこではいろいろな必要な用意があつてひまなまた充分あつたので着陸場の方へ行つて話したり笑つたりしながら飛行機の離着陸を見て出発の時間を待ちました。とうとう十二時頃待つて居た飛行機がつきました。大きい立派な飛行機でした。色は青くて前の方には丁度操縦室の上に二つの小さいひらひらしているはたがあり「SAS」と云う字が書いてありました。「SAS」とは *Scandinavian Airlines System* と云う意味です。零時十五分頃ラウドスピーカーは「スカンヂナビアン・エアライン・システムの旅客様お乗り下さい」と発表したので友達とかたく握手して飛行機に乗込みました。

席につき準備してからおびを締めました。各々の席には大きな帯があたつて居ます。離陸又は着陸の時にはそのおびで体を席に硬く締めます。急に操縦士の声が飛行機の中にひゞきました。「乗客様、後三分で離陸します今度のストップは明日の朝七時で香港です。途中で空はだいぶ曇つていて大風にもあいましょうから一万六千フィートの高さで飛んで行きます。御機嫌ようじ」と……。すると飛行機はゆつくり着陸場の向ふ側へ行き始まりました。そこに着いて風に向つて離陸する前にモーターの最後のプルーフをしました。時計を見ると零時二十九分でした。後五十秒、三十……二十 十五もう出発の瞬間が来たと思つていると急に操縦席の方から声がした。「御客様、出発を半時間ほど延期しなくてはなりません。ラージオがのかないからです」と……

半時間たつてからもう一度乗りました。「御客様、すぐ離陸しましょうでは御機嫌ようじ」ともう慣れた声がした。

すると四つのモーターなひどい音をしながら飛行機は風に乗せられて居るように五十……百……二百……二百五十キロのスピードを出して離陸した。下にのこつた友ははだんだん小さく小さくなつて来て遂に見えなくなつてしまいました。丁度一時でした。

飛行機は四五百米の高さで空を渡つて東京方へ曲りました。その時見た景色は決して忘れられないきれいな景色でした。広いく光の海のように東京都が私の下に見えました。二度東京の空を廻つてから横浜そして田浦の上を通りすぎて行きました。その後だんだん上昇して暗い雲に入つてしまいました。夜明に香港に着きました。朝飯をおえてからバンコックへ旅行を続けました。バンコックからカルカッタ、カラチ、デリーで着陸して明くる日十三日十二時頃無事にローマへ終着陸しました。ローマには四五日しか泊りたくないと思いましたが旅券の面倒なあつたのでほとんど三週間泊りました。その機会を利用してローマの一番有名な所を見物しました。

八月十五日の朝、教皇様ピオ十二世にお目に掛りました。

八月二十九日ローマで電車に乗つてボルサノへ行きました。

ボルサノというのは北イタリアのアルプスのふもとにある町です。アルプスを昇る為に一日泊りました。ボルサノからオーストリヤを通過してミユーニヒへ行きました。ミユーニヒで乗換へてラインという有名な川に沿うてケルンへ行きました。

明くる朝、校長先生のお父様と妹様を訪ねるためにオスターフェルドまで行つたんです。同じ日にもう一度ケルンへ帰つて明くる日九月三日とうとうマーストリッヒに着きました。

私の今勉強している神学校は新しくて大きな建物でマーストリッヒ市内です。

時々休む為に町のそばにあるオランダの一番高い山へ遠足に行きます。

私の部屋からその山の頂上まで三十分もかかりませんし山の高さは三百米しかありません。

そうですからこちらには日本にある様な景色は一つもありません。九月二十四日新しい学年が始まりました。

では君達のお父様とお母様によろしく。そして皆様に *"A Merry Christmas and a Happy New Year!"*

お元気でさようなら

十一月廿五日

外国便り

NO. 2

嬉しかった日本人との面会

エヴエレット先生

この間、シドニー・モーニング・ヘラルドと云う新聞を拾い、ぼんやりと貿易欄を見ていた時、不意に「日本の羊毛バイヤー濠洲に到着」と云ふ見出が私の目につきました。読んで見ると戦争後移民局が初めて日本人が貿易の為にオーストラリアに入る事を許可したそうです。神戸の兼松羊毛株式会社の代表として藤原猛氏が十一月十三日にシドニーに到着しました。

こんな記事を読みながら、私はその日本人の方に会いたくなつて堪りませんでした。新聞にその方の宿名は書いてなかつたので、どう云う風にして連絡出来るか一寸わかりませんでした。移民局に電話して頼んだら「はい、日本人の居る所を存じますが失礼ですが人に知らせてはいけません」それからどうしようかと思つてシドニーの羊毛会社にも電話し、幸に藤原氏と話す事が出来ました。彼は非常に忙しかつたのに、翌日の朝ホテルに遊びに来るように招待してくれました。

それでアルフォニソ様と私とは次の日の日曜日朝早くホテル・オーストラリア（シドニー第一のホテル）に出かけ、九時半頃藤原氏に会いました。この方は戦争前十七年間オーストラリアに住んでいたので英語は勿論の事お上手でしたが三人共日本語の方が好きなのでそれにしました。本物の日本語を聞いていた私はとても嬉しかつたのです。

藤原氏によつて一般の濠洲人達の日本人に対する態度は大分良くなつて来たらしい。とにかく二年前のヤシロと云う日本の聖公会の司教様（戦後初めて濠洲を訪問した方ー藤原氏はその次）の頃と較べてそうです。その時はヤシロ司教様を追出さなければ、その滞存しているホテルを爆発させるなどのような烈しい反感があつたが今度はそう云う事が全然ありません。今までどこへ行つても藤原氏は厚く待遇されました。近い中に他の日本人の商売人がどしどし濠洲に入つて来るだろう。

しばらくして藤原氏が親切にコーヒーを飲ましてくれてから公園（シドニー・ボタニカル・ガーデンズ）に散歩に出かけました。公園で最近の美術品の展覧会があつて、それをゆつくり見、それから藤原氏は私達の写真を撮つてくれました。始めから終りまで藤原氏の全然知らない私達に対する親切さは本当に著しかつたと思います。

確に日本人の特長の一つは礼儀正しい事に違いありません。

I want to wish all the boys of Eiko a most merry Christmas. You are always in my thoughts and prayers. All the world is watching one more independent Japan: be worthy of the great trust that is yours. God bless you.

Nov. 28　*B. Everett, S.J.*